

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News

企画展

おひなさま

平成21年2月17日[火]—4月5日[日]

春の訪れとともに、三月三日のおひなさまを飾る上巳の節句がめぐってきます。上巳の節句は、けがれを祓い人形を流す風習と平安時代の貴族の娘の人形遊びとが結びついて始まったと考えられています。最初は簡素な人形でしたが、江戸時代に年中行事としてひなまつりが定着すると、次第に凝ったつくりになり、付属の人形も増えて華やかなものになっていきました。

当館では今年もひなまつりを祝って、収蔵品を中心に多彩なおひなさまを展示します。西条藩松平家に嫁いだ通子のおひなさまは、公家の礼式を忠実に再現してつくられた有職雛で、公家出身の通子にふさわしい気品が感じられます。初公開の次郎左衛門雛は、丸顔に引目鉤鼻の独特な表情のおひなさまで、武家や公家などの上流階級に人気がありました。町家を中心に流行した享保雛は能面のような面長の顔立ちで、その装束には上質な織物が使われています。明治になると、明治天皇と皇后を模してつくられた洋装の変わり雛も登場しました。このように様式が異なるおひなさまが集まることで、江戸から昭和中期にかけての雛飾りの移り変わりが見えてきます。

このほかにも、小さな愛らしい御所人形、加茂人形などのさまざまなおひなさまや、台所道具、ままごと道具もあわせて展示します。春のおだやかな一時、博物館のおひなさまに会いに来ませんか。

→ 関連イベントは3ページをご覧ください。



次郎左衛門雛／個人蔵



犬笛／個人蔵



有職雛（西条藩松平家伝来）／当館蔵



御所人形／当館蔵



明治天皇・皇后変わり雛／個人蔵・当館保管

一つの古墳から 出土した耳環 (イヤリング)

出土地 伊予市猿ヶ谷2号墳
年代 古墳時代後期
法量 写真左上 幅3.00cm 重量20.08g
所蔵 愛媛県教育委員会蔵

「古墳には何人の人が埋葬されたのでしょうか？」

前期や中期の古墳は1人の死者を埋葬するために造られたものですが、後期古墳の内部主体である横穴式石室は、1人だけではなく、複数の死者を埋葬することが可能になりました。埋葬された人骨が残存することが少ないため、埋葬された人数を知ることは困難ですが、被葬者が身に付けていた装身具からその一端をうかがうことができます。この古墳では、14点の耳環が出土しており、大きさや製作技法から7対のセットが確認できます。出土した須恵器などの遺物から約100年間に7人以上が埋葬されたことが想定できます。

これらの被葬者の関係は現状では不明ですが、人骨



が良好に残存していた他県の古墳の調査・分析では、血縁のある家族が数世代に亘って埋葬されたことが明らかにされています。おそらくこの猿ヶ谷2号墳でも、二～三世代に亘る家族が数十年の時間を置いて埋葬されたと考えられます。古墳に納められた品々を分析することで、当時の家族や社会を復元することが可能になりつつあります。

(専門学芸員 富田尚夫)

歴史

雛

飾りと聞くと、最上段に内裏雛、その手前に三人官女や五人囃子などの人形や道具が三々七段に並び様子を思い描く方が多いのではないのでしょうか。江戸時代終わりに京都や大阪では、御所を模した御殿に

小さな人形と一緒に飾る御殿飾りであったといわれています。愛媛県内でも幕末頃には御殿飾りが流通し、時代と共に人々の好みを取り入れて瓦葺き風のお城のような御殿へと移り変わりました。昭和四十年代頃までその姿を確認することができます。

この御殿飾りは、八幡浜市の旧家に伝わっていたものです。檜皮葺風の彩色を施した屋根を乗せた白木造りの御殿と「曲水の宴」が組み合わされています。古くから行われてきた宮廷行事の一つ「曲水の宴」は、流れる水に浮かべた盃が自分の前を通過するまでに和歌を詠み、

御殿飾り (曲水の宴)



速さと出来ばえを競う遊びで、三月三日の上巳の節句に行われました。川の流れる様子とともに桜や草花を配した庭園風の台の上には、和歌を詠む平安装束を着付けた人形が並べられ、みやびな春の宴が広がっています。

年代 明治23(1890)年頃
サイズ 御殿87cm
所蔵 当館蔵

(主任学芸員 宇部高実蔵)

*御殿飾りは企画展「おひなさま」(2月17日～)にて展示します。

おひなさまイベント ^{き ぶん} **気分はすっかりおひなさま♪**

2月28日[土]、3月1日[日] 10:00~16:00

じゅうにひとえき つ ^{たいけん} **十二単着付け体験** (要事前申込・各日10名)



平安時代の貴族女性の衣装「十二単」を着てみませんか？

対象：小・中学生（身長140cm以上）
 時間：午前（10:00~12:00、一人30分程度）
 午後（13:00~16:00、一人30分程度）

参加費：無料

申込方法：

必ず往復はがきに「十二単着付け体験希望」と記載の上、希望日（2月28日か3月1日）、希望時間（午前か午後）、住所、氏名、年齢、電話番号をそえて、2月18日[水] 必着でお申し込みください。ただし、応募者多数の場合は抽選となりますので、ご了承ください。

〒797-8511 愛媛県歴史文化博物館「十二単着付け体験」係



おひなさまに^{へんしん} **変身** (申込不要・先着順)



西条藩のおひなさまと同じタイプの着物（袴姿）に変身しませんか？

対象：小学生（身長110cm~140cm）
 時間：10:00~12:00
 13:00~16:00

参加費：無料

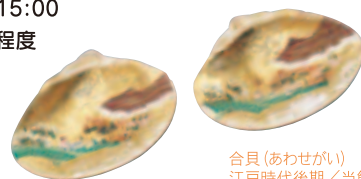


作ってみよう! (申込不要)

^{かい あ} **貝合わせをつくろう**

はまぐりの貝がらに絵を描いて、自分だけのオリジナル貝合わせをつくってみましょう。

時間：13:00~15:00
 材料代：200円程度



合貝(あわせがい)
江戸時代後期/当館蔵

テーマ展
情報

「武家屋敷出土の遊びと装いの道具」

会期：平成21年1月4日（日）~6月14日（日）

会場：考古展示室

江戸時代は今から約400年から140年前の身近な時代で、近年は松山城下を中心として、考古学的な調査が蓄積されつつあります。

今回、松山城下に所在した松山藩の武家屋敷である県



番町遺跡2次出土化粧道具 (愛媛県教育委員会蔵)



県民館跡地出土ミニチュア製品 (愛媛県教育委員会蔵)

民館跡地や番町遺跡2次出土資料を中心に、遊びや園芸、ペットなどの趣味、装いの道具を特集し、武家屋敷に住んでいた江戸時代の人々の暮らしの一面を紹介します。なかでも武家屋敷跡から見つかった多くのミニチュアのおもちゃは、道具を表現しており、当時の風習や暮らしぶりをうかがいしることができる貴重な資料です。

本展を機会に近世考古資料の魅力を知っていただき、近世考古学に関心をもっていただく一助になれば幸いです。

歴史文化講座

歴史講座

講座番号 **7** 「伊達宗城と島津斉彬」
 日時：2月21日(土) 13:30～15:00
 講師：藤田正 (当館学芸課長)

民俗講座

講座番号 **11** 「日本の裂織・愛媛の裂織」
 日時：3月21日(土) 13:30～15:00
 講師：今村賢司氏 (愛媛県生涯学習センター専門学芸員)

【各講座の申込方法】

希望する番号及び講座名とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、開講日の1週間前までに、はがきなどでお申込みください。
 ※定員に満たない場合は、申込締切後にも受け付けます。応募者多数の場合は抽選となりますのであらかじめご了承ください。

展示スケジュール2009.2-8



※都合により、行事や展示、日程などについては、変更・中止される場合がありますのであらかじめご了承ください。

4月から施設の管理・運営が変わります

4月1日より、イコテックターサービス(株)が愛媛県教育委員会から指定を受け、当館の施設管理・運営を行います。

当博物館は4月から指定管理制度に移行するため、休館日や料金などが変更になる場合があります。

TOPICS

貸出教材「れきハコ」 —弥生のくらしパック—

当館では、4月より博物館資料を学校教育でご利用いただく貸出教材「れきハコ」の運用がはじまります。

考古分野の「弥生のくらしパック」では、本格的な米づくりが始まった弥生時代のムラについて特集しています。米づくりの道具は、博物館が保管している資料を「耕す道具」・「収穫する道具」「脱穀する道具」・「貯蔵する道具」などに分けて、実物資料と写真パネルで紹介したものです。また、実際に着ることができ、貫頭衣、稲刈りを体験できる復元石庖丁などもセットされているので実際に手にとって体験してみることもできます。

この教材の準備段階では、3校で実際にこのセットを活用して授業を行っていただきました。どの学校でも普段触ることのない実物の弥生土器を持ってみたり、貫頭衣を着て復元石庖丁を手で校庭の草を摘みとってみるなどの体験を通して、当時のくらしを想像する生き生きとした児童のみなさんの表情が印象に残っています。「れきハコ」を使った授業で、小・



中学生の皆さんが少しでも歴史を身近に感じていただけたらと思います。

「れきハコ」には、この「弥生のくらしパック」のほか、民俗分野の「お祭りパック」「民話パック」も準備しています。詳しくは当館までお問い合わせください。

お問い合わせ：学芸課

TEL0894-62-6222

ご利用案内

- 開館時間:9:00～17:30 (入場は17:00まで)
- 休館日:毎週月曜日 (下記カレンダーをご参照ください。)
- 観覧料

	大人	小・中学生
常設展	500円(400円)	無料
企画展	200円(150円)	—
常設・企画展共通	600円(550円)	100円(50円)

※()内は20名以上の団体
 ※65歳以上の方などは常設・企画展ともに無料

Museum Calendar 2009.2-3

●休館日

2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
							29	30	31	*	*	*	*

※3月3日(火)は臨時開館します。

愛媛県歴史文化博物館
 MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE



〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町 4-11-2 電話：0894-62-6222

●発行日 平成21年2月1日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館 ●印刷/明星印刷工業株式会社